

システム・ダイナミクス学会日本支部 2007年度 第1回会員総会 報告

開催期日:2007年5月19日(土)

12時00分～12時30分

開催場所:学習院大学 南3号館104室

JSD会長 森田 道也

議 長

JSD会長 森田道也

議 題

1. 2006年度決算報告:承認事項 会長
2. 2006年度事業報告:報告事項 事務局長
3. 2007年度事業計画・予算:承認事項 会長
4. 新人事の提案(監事の交代):承認事項 会長
5. その他 事務局長

結 果

議題は全て満場一致で承認された。

【総会成立条件】

JSD事務局

1. 2007年度 JSD総会提出資料に関する理事会決議

理事会

- (1) 期間 5月16日 19時～21時
- (2) 場所 学習院大学 経済学部会議室
- (3) 出席者: 会長: 森田道也(会長)、理事: 松本憲洋、
- (4) 議事
2006年度決算報告
2007年度事業・予算計画
- (5) 結果
全出席者が提出議題を承認した。

2. 2007年度 JSD総会出席者

- (1) 出席者(25名)
伊藤良之, 今別府忍, 内野明, 内山章, 宇野恵裕, 海老根敦子, 大迫尚司, 河野誠二, 小池昇司, 小林秀徳, 小林容子, 近藤史人, 坂倉省吾, 西岡太郎, 蓮尾克彦, 巴山孝男, 福島史郎, 松本憲洋, 明神知, 森田道也, 山口薫, 山口庸一, 渡部淳一, 渡邊恵, 豊島雅和
- (2) 委任状の電子メール送信者(20名)
米川清, 神崎広史, 福田信孝, 高橋裕, 熊澤正光, 末武透, 池田誠, 落合以臣, 吉川道弘, 磐田克夫, 富樫慎一, 斎藤環, 大澤光, 野田英志, 田中伸英, 田中恒行, 雨宮隆, 福良博史, 石井宏典, 大賀英史
- (3) 定足数
出席者と委任状送付者の合計が(45名)で、会員総数の1/3(29人)定足数を越えていることから総会は成立した。

【会員状況】

2006年度会員数 112人(2007年3月31日現在)

2007年度会員数 86人(2007年4月1日現在)

1. 2006 年度収支決算書

(2006 年 4 月 1 日 ~ 2007 年 3 月 31 日)

	2006年度予算額	2006年度決算額
収入の部		
前期繰越金	1,841,123	1,841,123
個人会費	550,000	519,000
賛助会費	100,000	50,000
出版物売上	20,000	27,000
雑収入	0	4,557
当期収入合計	670,000	600,557
収入の部合計	2,511,123	2,441,680
支出の部		
通信費	100,000	19,240
印刷費	150,000	41,475
テープ起こし	75,000	71,000
事務用品費	10,000	4,116
講師謝金	70,000	46,000
交通費	10,000	2,740
雑費	30,000	16,315
会議費	20,000	0
研究会(首都圏)補助費	50,000	20,150
研究会(全国区)補助費	50,000	19,800
研究分科会補助費	50,000	0
アルバイト謝金	20,000	15,000
学会誌印刷費	250,000	0
前年度未処理分	0	0
事務所賃貸料	30,000	24,000
当期支払合計	915,000	279,836
次期繰り越し	1,596,123	2,161,844
現金残高		62,026
預金残高		2,099,818
未払い金		0
支出の部合計	2,511,123	2,441,680
2007年3月31日	理事(会計担当)	蓮尾克彦 
上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。		
2007年4月30日	監事	内山 章 

2. 2006 年度事業報告 (2006 年 4 月 1 日 ~ 2007 年 3 月 31 日)

2.1 JSD 研究会

- (1) 首都圏 : 5 回を予定し、4 回開催した。
担当 小池、蓮尾、高橋、渡部
- (2) 全国区 : 1 回を予定し、2006 年 11 月に開催した。
担当 和泉、近藤、山口

2.2 学会誌の発行

発行号数 : 6 号
発行時期 : 2007 年 5 月 19 日に発行した。
特集等 : JSD カンファレンス 2007 「内部統制とシステム・ダイナミクス」
担当 : JSD 学会誌 編集委員会

2.3 研究分科会の活動促進

2005 年度に研究分科会が 3 つ以上活動していることを目指したが、2 つの研究分科会のみが活動した。活動報告については、添付資料を参照。

「ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会」(主査:森田道也 幹事:松本憲洋 21 名)

「ダイナミックシステム・モデリング研究分科会」(主査:近藤史人 幹事:小池昇司 11 名)

2.4 フォーラム/シンポジウムの開催 担当:全役員

- (1) 2006 年度総会記念討論会
期日・場所:2006 年 4 月 1 日 13 時 15 分 ~ 16 時 40 分 学習院大学
テーマ:「日本のシステム・ダイナミクス教育の行方は?」
参加者数:33 人
- (2) JSD CONFERENCE 2007
期日・場所:2007 年 5 月 19 日 12 時 30 分 ~ 17 時 30 分 学習院大学
主題:「内部統制とシステム・ダイナミクス」
担当:ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会
参加者数:___人(予定)

2.5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進 担当:高橋

海外からはホセ・マチューカ氏(スペイン・セヴィリヤ大学教授)が来日し、5 月 13 日に学習院大学にて研究会を開催した。マチューカ氏には「トランスペアレント・ボックス・ビジネス・ゲーム」によるビジネス教育とコンサルティングについて報告をしていただいた。

国際大会はオランダ・ナイメーヘンの Radboud University にて、7 月 23 日 ~ 27 日にわたって開催された。日本からは 4 名の参加者(含 国際担当理事)があった。内容については 9 月 30 日の研究会で報告した。また、国際大会では昨年度初めて各国支部のポスターセッションが設けられ、日本支部の活動状況を報告した。

2.6 SD の普及のための Web 公開・講習会など 担当:近藤・松本

前年度までのホームページの構造が複雑だったため、全体的に変更を加えた。その結果、更新が容易になるとともに、水色と白の基調色によりイメージも一新した。

2.7 運営体制 担当:松本

JSD 理事会はミッションを下記と定め、JSD の運営に取り組むよう努力した。カンファレンスの開催、新しい研究分科会の開始等で、わずかに効果が現れたが、十分ではなかった。

「JSD 理事会は、システム・ダイナミクスに関して会員に役立つ事業に取り組み、システム・ダイナミクスの普及を図ることにより、日本社会に貢献することを目指します」

3. 2007 年度事業計画・予算案

3.1 2007 年度事業計画案 (2007 年 4 月 1 日 ~ 2008 年 3 月 31 日)

3.1.1 JSD 研究会

JSD 研究会(首都圏)

- (1) 担当: 蓮尾克彦、高橋裕、渡部淳一
- (2) 開催場所: 東京
- (3) 開催時期: 2007 年 9 月(研究会形式)、12 月(セミナー形式)
- (4) その他: 以下については担当者で協議し決定する。
運営体制、発表件数、参加者規模、広報方法、ほか
9 月の研究会では、WPI の Khalid Saeed 教授(*) の講演も予定する。
(*) Ph.D. Professor and Department Head, Worcester Polytechnic Institute

JSD 研究会(全国区)

- (1) 担当: 和泉潤、小池昇司、近藤史人、山口薫
- (2) 開催場所の候補: 京都または名古屋
- (3) 開催時期: 2007 年 11 月の土曜日
- (4) その他: 以下については担当者で協議し決定する。
運営体制、発表件数、参加者規模、広報方法、ほか

3.1.2 学会誌の発行

- (1) 担当: 内野明、海老根敦子、大賀英史、末武透、松本憲洋、明神知、森田道也
- (2) 事業方針: 今年度発行予定の Volume 7 についても、論文集を目指した創刊号の姿勢にこだわらず、3 号以降の現実的な姿勢に倣う。
- (3) 事業内容
発行回数: 1 回 / 年
発行時期: 2008 年 5 月(総会開催予定日)
内容: 査読論文、発表論文、その他
ページ数: 150 ページ
発行数: 300 冊
販売価格: 2,500 円 / 冊
- (4) スケジュール
編集委員会: 2007 年 10 月に構成
論文募集 : 2007 年 11 月に開始
- (6) 編集委員会: 編集委員(若干名)と査読委員(若干名)を選任する。
結果は、2008 年 1 月に ML により公示する。

3.1.3 研究分科会の活動促進

- (1) 担当: 全役員
- (2) 目標と活動方針
3 つ以上の研究分科会が活動を開始することを目指す。研究分科会の活動に参加して、SD に関する実用的な価値を理解することにより、JSD に入会するきっかけとなることを期待する。そのために、初年度に限り JSD 会員以外も研究分科会のメンバーとして登録して活動できることとする。JSD 会員以外の登録については、研究分科会の主査の管理下において実施する。

3.1.4 総会/カンファレンスの開催

- (1) 担当: 事務局長(総務担当理事)、事務局担当幹事
松本憲洋、小池昇司、近藤史人、蓮尾克彦、明神知、渡部淳一
- (2) 2008 年度総会期日: 2008 年 4 / 5 月
- (3) JSD CONFERENCE 2008 の開催期日: 2008 年 4 / 5 月
テーマ: 2007 年 11 月に公示する。

3.1.5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進

- (1) 担当: 高橋 裕
- (2) 活動方針:
海外からのシステム・ダイナミクスに関する研究者の来日の知らせが国際担当理事に届いた際は学会事務局および理事に報告する。必要があれば研究会の開催を研究担当理事で検討する。
本年度は国際担当理事が国際大会(米国ボストン Seaport Hotel, 7 月 29 日~8 月 2 日)に参加する、現地で日本支部に関する問合せがあれば対応する。
また、昨年度に続き国際大会で各国支部のポスターセッションが設けられているので、日本支部の活動状況を報告する。

3.1.6 SD の普及のための Web 公開など

- (1) 担当: 全役員
- (2) 活動方針:
JSD の活動の活性化及び SD の普及のために、各種の関連イベント、研究会、研究分科会など様々な情報を、迅速にホームページに掲載する。

3.1.7 運営体制

- (1) 2006 年度 JSD 理事会のミッション
「JSD 理事会は、システム・ダイナミクスに関して会員に役立つ事業に取り組み、システム・ダイナミクスの普及を図ることにより、日本社会に貢献することを目指します。」
- (2) 理事会運営体制
会長 : 森田道也
副会長(会長補佐): 山内 昭
総務担当理事(Executive Director): 松本憲洋
国際担当理事(International Society Liaison): 高橋 裕
JSD 研究会(首都圏): 蓮尾克彦、高橋 裕、渡部淳一
JSD 研究会(全国区): 和泉 潤、小池昇司、近藤史人、山口 薫
JSD 学会誌: 内野明、海老根敦子、大賀英史、末武透、松本憲洋、明神知、森田道也
監事: 内山 章、福島史郎(新任)

事務局: 松本憲洋(事務局長)
事務局担当幹事
小池昇司(名簿管理)、近藤史人(HP 管理)、蓮尾克彦(会計)、明神知(ML 管理)、
渡部淳一(JSD 研究会連絡)、
- (3) 顧問: 島田俊郎先生、坂倉省吾先生、亀山三郎先生、小林秀徳先生

3.2 2007年度予算案

(2007年4月1日～2008年3月31日)

	2006年度	2007年度
収入の部		
前期繰越金	<u>1,841,123</u>	<u>2,161,844</u>
個人会費	550,000	550,000
賛助会費	100,000	50,000
出版物売上	20,000	20,000
雑収入	<u>0</u>	<u>0</u>
当期収入合計	670,000	620,000
収入の部合計	<u>2,511,123</u>	<u>2,781,844</u>
支出の部		
通信費	100,000	100,000
印刷費	150,000	150,000
テープ起こし	75,000	0
事務用品費	10,000	10,000
講師謝金	70,000	50,000
交通費	10,000	10,000
雑費	30,000	30,000
会議費	20,000	20,000
研究会(首都圏)補助費	50,000	50,000
研究会(全国区)補助費	50,000	50,000
研究分科会補助費	50,000	100,000
アルバイト謝金	20,000	20,000
学会誌印刷費	250,000	350,000
前年度未処理分	0	0
事務所賃貸料	<u>30,000</u>	<u>24,000</u>
当期支払合計	915,000	964,000
次期繰り越し	<u>1,596,123</u>	<u>1,817,844</u>
現金残高		
預金残高		
未払い金		
支出の部合計	<u>2,511,123</u>	<u>2,781,844</u>

4. 新人事の提案(監事の交代)

監事交代の提案

2006年度当初の監事 松本安生氏 (理由:退会)

2007年度の監事の提案 福島史郎会員

5. その他

【添付資料】

JSD研究会 開催記録 (2006年度)

1. JSD研究会(首都圏)

研究会名称	JSD研究会(首都圏)	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2006年5月13日 14:00~16:00	1	Jose A.D. Machuca	University of Sevilla	Enhancing the Learning Process by TBBSs Based on System Dynamics Model
場所	学習院大学				
出席者数	11				
担当役員・幹事	高橋 裕				

研究会名称	JSD研究会(首都圏)	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2006年9月30日 14:00~16:00	1	高橋 裕	専修大学	国際大会参加報告
場所	専修大学	2	内野 明	専修大学	ワークショップ:SSM Todayに参加して SSMとSD雑感
出席者数	7				
担当役員・幹事	高橋 裕				

研究会名称	JSD研究会(首都圏)	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2006年11月18日 14:00~16:00	1	巴山孝男	太陽誘電株式会社	需要変動に連動した製品ライフサイクルマネジメントについての研究
場所	専修大学	2	夏目真一	横須賀市役所	自治体職員によるSDモデルの構築実例と今後の活用方法について
出席者数	9				
担当役員・幹事	高橋 裕				

研究会名称	JSD研究会(首都圏)	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2007年1月27日 14:00~16:00	1	安藤史江	南山大学	キャリア選択と組織要因の関係を探る
場所	専修大学				
出席者数	7				
担当役員・幹事	高橋 裕				

2. JSD研究会(全国区)

研究会名称	JSD研究会(京都)&経営SDワークショップ「SDによる戦略的ビジネス及び自治体経営のモデリング」	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2006年11月25日(土曜日) 10:30~17:00	1	藤原秀樹	同志社ビジネススクール	日本マクドナルドはなぜ失墜の危機に陥ったのか
場所	同志社ビジネススクール KMB213教室	2	中西宣之	同志社ビジネススクール	バランス・スコアカード的経営に於けるKPIの融合は可能か - (株)イシダのケース
出席者数	43人	3	吉村 要	同志社ビジネススクール	自治体の財政破綻をもたらすシステム構造の解明 - 大阪府A市のケース
担当役員・幹事	運営責任者: 山口 薫(DBS, JSD) 運営委員: 和泉 順(JSD) 近藤 史人(JSD) 福島 史郎(DBS-SDG) 早崎 道人(DBS-SDG) 吉村 要(DBS-SDG) 藤原 秀樹(DBS-SDG)	4	福島史郎	オムロン株式会社、同志社MBA	商品開発・設計でなぜ同じような失敗を繰り返すのか
		5	池田 誠	東洋大学大学院 国際地域学部	システム思考とシステム・ダイナミックスの連続性を利用した国際開発課題に関する留学生教育について
		6	神田之裕	リコーエレメックス株式会社	販売プロセス・モデルを活用した販売施策の策定
		7	近藤史人	日本ビューレット・バッカード株式会社	戦略的ITの投資対効果のモデリング
		8	中村州男	特定非営利活動法人 情報化コートピア	オペレーションズ・リサーチ学習用SDモデル
		9	辻 稔郎	大阪国際大学法政経学部(非常勤)、甲南大学理工学部(非常勤)	Environmental and Economic Accounting Dynamics Model について

研究分科会 開催記録 (2006年度)

1. ビジネス・プロセス・ダイナミクス(BPD)研究分科会

研究分科会名称 ビジネス・プロセス・ダイナミクス(BPD)研究分科会

主査 森田道也(学習院大学)

幹事 松本憲洋(POSY Corp.)

メンバー 伊藤武志、伊藤良之、内野明、内山章、紅林倫太郎、小池昇司、河野誠二、小林容子、コールバッファ、近藤史人、坂倉省吾、西岡太郎、蓮尾克彦、福島史郎、福田信孝、松本憲洋、水内啓介、明神知、森田道也、山口庸一、渡邊恵(計21名)

活動報告 2008年4月以降の事業年度から、内部統制報告書いわゆるJ-SOX法の制度が始まる。現在、各企業で進められている内部統制の構築・整備において、業務プロセスの文書化・可視化が実現すると、それを利用することで、業務プロセスのシミュレーション・モデルが比較的容易に構築できる。そのモデルを使えば、仮説検証型の仮想経営により、戦略・計画策定、サプライチェーンの条件探索、情報投資評価、プロジェクト管理など、他社を差別化できるその企業独自の参照データを得ることができる。このことを広くアピールするためのカンファレンスを計画し、その発表に向けて各自の研究テーマを絞り込んだ。カンファレンスは2007年5月19日に開催する。
【準備委員】松本憲洋(委員長)、近藤史人、蓮尾克彦、小池昇司、明神知

期日・時刻	6月7日 18:30-21:30	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	全員		各自の研究テーマの説明
出席者数	10人	2	松本	POSY	モデルベース経営の総括
期日・時刻	7月19日 18:30-19:30	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	明神	オージス総研	モデルベース制御に学ぶ
出席者数	10人				
期日・時刻	9月20日 18:30-21:25	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	小池	リコーエレメックス	ビジネス・プロセス・モデリングにおける情報遅れの要因
出席者数	11人	2	松本	POSY	SDにおける遅れの表現
		3	渡邊	三木産業	システムシンキングにより戦略範囲の見極め
期日・時刻	10月18日 18:30-20:50	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	蓮尾	テブコシステムズ	IT開発における制約理論(TOC)の適用
出席者数	10人	2	松本	POSY	システム原型をどう使う?
期日・時刻	11月22日 18:30-21:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	近藤	HP	戦略的ITの投資効果のモデリング
出席者数	13人	2	蓮尾	テブコシステムズ	相場の力学
		3	松本	POSY	カンファレンス事業計画の提案
期日・時刻	12月20日 18:30-19:50	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	松本	POSY	内部統制を端緒とする経営革新
出席者数	13人				
期日・時刻	1月17日 18:30-21:30	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	松本	POSY	経営関連の要素モデルの参考例
出席者数	15人	2	全員		カンファレンスにおける各人の発表テーマ
期日・時刻	2月28日 18:30-20:50	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	松本	POSY	SDモデリングで"最適化"を活用
出席者数	16人	2	小林	テブコシステムズ	遺伝的アルゴリズムによる最適化の基礎
期日・時刻	4月18日 18:30-21:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学	1	渡邊、福島、蓮尾、 近藤、明神		カンファレンスの発表で使うモデルの説明
出席者数	12人				

2. ダイナミックシステム・モデリング(DSM)研究分科会

研究分科会名称	ダイナミックシステムモデリング研究分科会
主査	近藤史人
幹事	小池昇司
メンバー	近藤史人(日本ヒューレット・パッカード)、小池昇司(リコーエレメックス)、大島理喜男(経営サポーター)、森雅俊(愛知産業大学経営学部ビジネスマネジメント学科)、古川忠始(古川電機製作所社長)、横井右門(前 愛知学泉大学)、細川敏宏(中小企業基盤整備機構、e-金型研究所 所長)、奥田隆史(愛知県立大学)、東誠(国立館山海上技術学校教諭)、小川節男(三菱重工業 品質保証部品質マネジメント課)、神田之裕(リコーエレメックス)、八巻直一(静岡大学工学部)
活動報告	第1回 2006.8.26 各自がPCを使ってPowersimにより簡単なモデルを作成できるようになった。次回までに2つのケーススタディを宿題として提示した。第2回2006.10.21 新規事業の立ち上げから安定に至るキャッシュフローの予測モデルを作成した。各自、自力でシミュレーションモデルを完成できた。第3回から第5回まで、アロマテラピーの新規事業立ち上げから安定期にいたるまでのモデルを成熟させつつ、Solverによるリスク分析・最適化の手法の紹介など高度な技術を紹介した。第6回以降、各自が職場などで抱える課題をテーマにモデリングを行い、全員でそれを論評する方向に移行した。

期日・時刻	2006.8.26 15:00-18:00	番号	講演者	所属	内容
場所	日本HP中部支店会議室	1	近藤史人	日本ヒューレット・パッカード(株)	分科会ガイダンス、Powersimの使い方、簡単なモデルの作成
出席者数	11名	2	小池昇司	リコーエレメックス(株)	分科会ガイダンス、Powersimの使い方、簡単なモデルの作成

期日・時刻	2006.10.21 15:00-18:00	番号	講演者	所属	内容
場所	日本HP中部支店会議室	1	近藤史人	日本ヒューレット・パッカード(株)	新規事業立ち上げから安定期に至るまでの資金繰りのモデルを促成し、事前の策を打つ仮想経営を体験した。
出席者数	7名	2	小池昇司	リコーエレメックス(株)	同上

期日・時刻	2006.12.9 15:00-18:00	番号	講演者	所属	内容
場所	日本HP中部支店会議室	1	松本憲洋	POSY Corp.	Ps Studioを用いる自己学習資料の提供、およびRichmondの経営関連の基本モデルの
出席者数	7名	2	近藤史人	日本ヒューレット・パッカード(株)	新規事業立ち上げから安定期に至るまでの資金繰りのモデルを促成し、事前の策を打つ仮想経営を体験した。
		3	小池昇司	リコーエレメックス(株)	同上

期日・時刻	2007.1.13 15:00-18:00	番号	講演者	所属	内容
場所	日本HP中部支店会議室	1	近藤史人	日本ヒューレット・パッカード(株)	新規事業立ち上げから安定期に至るまでの資金繰りのモデルを促成し、事前の策を打つ仮想経営を体験した。
出席者数	5名	2	小池昇司	リコーエレメックス(株)	同上

期日・時刻	2007.3.3 15:00-18:00	番号	講演者	所属	内容
場所	日本HP中部支店会議室	1	近藤史人	日本ヒューレット・パッカード(株)	リスク分析・最適化手法の紹介 Richmondの経営関連基本モデルの解説 新規事業立ち上げから安定期に至るまでの資金繰りのモデルを促成し、事前の策を打つ仮想経営を体験した。
出席者数	5名	2	小池昇司	リコーエレメックス(株)	同上

期日・時刻	2007.4.21 15:00-18:00	番号	講演者	所属	内容
場所	日本HP中部支店会議室	1	参加者全員		参加者全員が、それぞれのテーマによるモデルの説明を行い、それに対する論評を全員で行った
出席者数	4名				

総会記念討論会(2006年度)

主題 : “日本のシステム・ダイナミクス教育の行方は?”

開催期日:2006年4月1日(土) 13時15分~16時40分

開催場所:学習院大学 西1号館101室

出席者 :33人(JSD会員24人 非会員9人)

開催趣旨:

毎年開催されている、MIT 中心の国際会議(SDS)では、大学院生のチュートリアルやセッションが開催され、参加人数は毎年増加している。しかし、日本からは参加する学生もなく、それどころか取り扱う大学教員も減少する傾向にある。

日本ではこれから15年間、SDの教育に関して「座して死を待つ」のか、「戦略を立てて死を回避し成長に向かう」のか、出席者は熱心に議論をした。されど、展望は開けず、光明も見出せなかった。

プログラム:

1. 基調講演 13時20分~13時50分
「情報システムと意思決定研究の将来」
富山慶典(群馬大学 社会情報学部 / 社会情報学研究科 教授)
2. 情報提供1 :「日本のSD教育の現状」 13時50分~14時50分
 - (1) 学部教育について
高橋 裕(専修大学商学部 助教授)
森田道也(学習院大学経済学部 教授)
 - (2) 大学院教育について
小林秀徳(中央大学総合政策学部 教授)
山口 薫(同志社大学 ビジネス研究科 教授)
3. 情報提供2 :「海外のSD教育の現状」15時~15時40分
 - (1) アメリカの初等・中等教育におけるSD教育の紹介
末武 透
 - (2) 世界のSD教育の現状
高橋 裕(専修大学商学部 助教授):ブリストル大学 政治学部
内野 明(専修大学商学部 教授):WPI
紅林倫太郎(日本電気株式会社):MIT 経営大学院
渡部淳一(法務省):ニューヨーク州立大学
渡部氏は配布資料による参加
4. 討論 :今後15年の日本のSD教育の戦略 15時40分~16時40分
座長:森田道也
論者:富山慶典、山口 薫、小林秀徳

【参考】

システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年総会時および会長がその必要を認めるとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めるときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。
〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12-104 藤和半蔵門コープ1F POSY Corp. 内
システム・ダイナミクス学会日本支部事務局
Tel & Fax 03-3512-5358
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

付 則 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員任期は1991年12月31日までとする。

- 2 本内規は1990年9月22日より発効する。
 3 1991年7月22日一部改正 4 1992年2月17日一部改正 5 1995年3月13日一部改正
 6 1996年3月29日一部改正 7 2003年2月12日一部改正 8 2004年1月31日一部改正
 9 2005年4月2日一部改正
 10 第14条の規定にかかわらず、2005年度会計年度は、2005年1月1日から2006年3月31日までとする。

システム・ダイナミックス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第1条 この細則は「システム・ダイナミックス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第2条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
 - 2 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
 推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)
 被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、
 JSD会長としての目標・抱負(400字以内)
 - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に7日間の期間を設定して実施する。
 - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
 提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
 全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
 会長による承認
 研究分科会活動開始
2. 諸規定
 - (1) 設立条件
 5名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的がJSDの活動主旨に沿い、JSDの研究・普及活動を活発化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
 - (2) 参加資格
 研究分科会の活動に貢献するJSD会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
 - (3) 研究分科会の組織と運営
 分科会には主査と幹事を置き、事務局が設定した分科会専用のMLの管理も自主的に行う。
 - (4) 研究分科会の権利と義務
 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
 少なくとも年1回以上はJSD研究会等で発表する。
 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式
 メンバーリストを入力したExcelファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。
 事務局：jsd-office@yahogroups.jp

 分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日： :

申請者： :

名称： : 研究内容が推測できる研究分科会の名前

共同申請者： : 添付するExcelファイルに5名以上のJSD会員名を記載

趣旨： : 研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載

研究内容： : 研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載

研究体制： : 研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載

 メンバーリストのExcelファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。
 名前, e-mailアドレス, 所属機関名

編集委員会細則

- 第1条 (目的)
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)
編集委員会の構成は次の通りとする。
編集委員長 1名
編集副委員長 1名
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。
学会誌の投稿規定の策定と論文募集
学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任
学会誌の編集に関わる業務
学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
2. 審査基準
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
3. 査読者
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
4. 判定
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。
そのまま掲載
指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載
再度査読者の審査が必要
掲載不可

と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書をもって提出し、編集委員会で審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には、掲載不可に分類される。
と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、掲載不可に分類される。

メーリング・リストの使用手順

1. メーリング・リストの概要

メーリング・リストは Yahoo!グループのシステムを使用しています。現在、大きく分けて五種類のメーリング・リストを会員向けに運用しています。

メーリング・リストの種類

グループ	説明
jsd_from_office @yahoogroups.jp	事務局からの連絡用ML。日本支部主催の催し物、総会の案内等、公式の案内を配信するためのMLです。配信者は原則として事務局です。
jsd-office @yahoogroups.jp	事務局への連絡用ML。事務局へメールを送りたい場合は、このアドレスへ送信してください。
jsd-research-meeting @yahoogroups.jp	JSD研究会の開催通知の送付用ML。配信者は担当理事で、全会員に向けて送信されます。
jsd_salon @yahoogroups.jp	ディスカッション用ML。会員が全会員に向けて発信するためのMLです。会員の方であれば自由に配信することが出来ます。
jsdr_*** @yahoogroups.jp	分科会ML。分科会ごとのMLです。分科会内での議論、連絡等に使用します。

2. メールの送り方

メールは上の表の各アドレスを宛名としてメッセージを送信すれば、各メーリング・リストに登録されているメンバーへ一度にメッセージを送ることが出来ます。

例えば、jsd_salon@yahoogroups.jp には全ての会員が登録されていますので、この宛先を指定すると、全会員へメッセージが送信されます。

セキュリティの関係で、メールには原則としてファイルを添付できません。添付ファイルはメール本文に含めるか、またはこの後に説明するウェブ・ページ内のブリーフ・ケースにアップ・ロードして、その旨を本文に記載し、読者がそのウェブ・ページを参照する形をとってください。

3. ウェブ・ページの利用

Yahoo!グループでは、各メーリング・リスト毎に専用のウェブ・ページが用意されています。そのページ上で過去のメッセージを確認したり、ブリーフ・ケースを利用したりすることが出来ます。

(1) アクセスの準備

ウェブ・ページの利用には Yahoo! Japan ID の取得が必要となりますので、お持ちでない方は登録をお願いいたします。登録画面へは、下記の Yahoo! グループのトップ・ページから入れます。

<http://groups.yahoo.co.jp>

(2) アクセス

Yahoo! グループを利用するには、上記のページを

開いてください。各メーリング・リストに対応するウェブ・ページのURLは、上記のURLの後ろに、/group/をつけ、

その後に、各メーリング・リストのアドレスをつけます。例えば、左の表の最上段に記載した事務局からの連絡用メーリング・リストの場合には、専用ウェブ・ページのURLは次のようになります。

http://groups.yahoo.co.jp/group/jsd_from_office/

(3) ログイン

専用ウェブ・ページのURLを直接入力するか、または、Yahoo!グループのページから下記の流れに沿って対応するページに入ります。

Yahoo! グループのページを開くと、右側に下図のような Yahoo! JAPAN ID とパスワード(＊)を入力する場所がありますので、それぞれを入力し、ログインボタンを押してください。



ログインした画面の右側に、自分が所属している Yahoo! グループの名前の一覧である "Myグループ" が表示されますので、開きたいページをクリックします。

ウェブ・ページの構成の主なものは、トップ・ページであるメイン・ページとブリーフ・ケースです。ブリーフ・ケースでは、テキスト形式以外のデータもアップ・ロードして保管でき、ユーザーが自由にそのコンテンツをダウンロードできます。一方のメイン・ページでは過去のメールを確認できます。

(4) ブリーフ・ケース

事務局からの連絡用の(2)で例示したブリーフ・ケースには、JSD会員名簿、JSD総会資料、テキスト・データ以外のデータなどがアップ・ロードされ保管されています。

このようなアップ・ロードされているブリーフ・ケースのファイルを利用するには、まず利用したいファイルがアップ・ロードされているグループを選択します。

選択したグループのページに移ると下図のようなコンテンツのメニューが表示されますので、ブリーフ・ケースへのリンク行をクリックしてください。

